

員会をつくらせました。この人たちに政府のお金をかして、そのお金で自分のやけたりこわれたりした家を建てなおし、一日も早く産業をさかんにさせようとしたのです。

伝右衛門は、須賀川の生産方の一人ひとりに選ばれました。生産方ひとりに選ばれたのは六人で、みんな須賀川の大きな商人たちでした。伝右衛門は、このとき二十六才の

若者でした。

須賀川ひとりの生産方には、早くも大きな仕事ひとりがまっていました。須賀川に生産方ひとりができた明治二年は、五月ごろから寒い日ひとりがつつぎ、夏の終わりごろには凶作ひとりだということがわかりました。

伝右衛門をはじめ生産方の人々は、宮城県にお米を買いにいたり、東京



橋本 伝右衛門